第２号

せきやの灯

ここに―このん

発行日　平成25年10月21日
発　行　関屋小学校地区コミュニティ協議会
編　集　同総務部会
協　力　新潟市立関屋中学校
　　同校地域教育コーディネーター　平間 繁
　　新潟市関屋地区公民館

関屋小学校区 敬老祝い会 9月14日

9月14日（土曜）、午前9時30分から13時まで、関屋小学校体育館で215人の参加を得て「敬老祝い会」が開催された。75歳以上の方々80人に関小子どもふれあいスクールの21人が手作りの記念品を贈り、健康と長寿をお祈りした。

3世代そろって笑顔みな笑顔

定刻の9時30分、主催の関小コミ協会長橋本敏郎さんから歓迎のあいさつ、続いて関屋出新・包括支援センターの事業説明があり、その後、予定されたイベントが次々と披露された。

まず「フラサークル花」、6人のダンサーがはいハワイアンのメロディーにのって「憧れのハワイ航路」や「赤いレイ」などのフラダンスをステージいっぱいに展開した。

続いて、青陵大学生2人が流れる汗を拭きながら、ボール、シガーボックス、ヨーヨーなどを使ったジャグリングを熱演、会場から盛大な拍手が起きた。

その後、約10分間休憩。「いしずえ合唱団」の18人が登場、昭和の懐かしい歌謡曲や唱歌15曲が会場に流れ、会場いっぱいに詰めかけた皆さんもいっしょに口ずさんでいた。

「フラサークル花」のフラダンス
「ブルーハワイ」わたしとあなたと恋をしましょう

イベントの最後に、関小ふれらんの児童21人がステージに勢揃いし、元気な声で合唱。

歌い終わってからステージを降りて、胸に造花のバラをつけた75歳以上の方々一人ひとりに手作りのコースターをプレゼントし、高齢者との貴重なふれあいタイムとした。

正午、参加者全員にお昼のべんとうをお渡しし、共催の関屋地区社会福祉協議会・会長本間之子さんの閉会あいさつのあと、おひらきとした。

会場で拾った感動・感謝の声いろいろ

☆小杉美津子さん（学校町3）普段会えない人と会えてよかった。会場内の人たちといっしょに歌を歌うことができて楽しかった。

☆関屋小学校児童代表　平野利明さん（関小6年、関屋田町3）たくさんの高齢の方々に会うことができて、とてもよかった。

☆鈴木乃愛さん（関小4年、学校町3）とても楽しかったヨ。フラダンスもジャグリングも。

☆山田正二さん（76歳）光子さん夫妻（関屋ハイツ）夫婦と孫2人あわせて4人揃って参加。楽しく過ごしました。フラダンスではついリズムに合わせて身体が動きました。合唱団の歌声に懐かしい歌を満喫させていただきました。

☆小池智美さん（81歳、関屋ハイツ）ジャグラーの若い人が風船を弄みこんだのにはびっくり、合唱団の方々といっしょに懐かしい歌を口ずさみ、ほんとうに楽しい会でした。ゆき届いた接遇をしてくださったスタッフの皆さま、ありがとうございました。

☆民生委員・主任児童委員　片桐一さん（34歳、関屋田町2）3世代間の交流の輪がこのような形で、できてよかった。こんな機会をもっとふやしたい。

囲碁で脳の活性化を!!!
～指先と脳を使って～

9月18日、関屋地区公民館の和室で石栄会会長高原正広さんから、囲碁の魅力、碁会の活動などについて話していただきました。

Q石栄会の名前の由来についてお聞かせください。

Aこの会は平成9年の設立で当時の会長さんの命名です。名前のように会員が増えて質の高い活動をしたいとわたしはいつも思っています。

Q石栄会の活動で、どんなご苦労がありますか。

A若い人が会社でやらなくなったり、忙しくて公民館へ来れなくなったりで、会員が減っていることです。

囲碁の魅力とは盤上の無限大の変化

Q囲碁の最大の魅力は何ですか。

A囲碁もオリンピック種目に採用される可能性があります。碁のルールは簡単で、世界共通ですから、外国人と会話ができなくても、碁石を一つずつ打ち合うことで会話と同様に心が通います。その変化は無限大で、どんな展開がその先に待っているか、それは誰にも分からないことでしょうか。

Q囲碁の「宅配ボランティア」があるそうですが、具体的にはどんなことをされるんですか。

Aわたしはいま福祉囲碁協会に入会し、ボランティア棋士（約30人）として新潟市全域の外出が不自由な方のお宅へ行って、囲碁の相手をしています。

Q囲碁で「段」を取るというのは何年ぐらいかかりますか。

Aその人の年齢、才能、努力などによって様々です。わたしの場合、就職して2年で二級に、30歳半ばに日本棋院新潟支部の大会で優勝、三段の免許をもらいました。

Q石栄会の皆さんの健康の秘訣を教えてください。

A囲碁の魅力は指先と脳を使うことによって、脳を活性化させることができると信じています。これが健康と長寿の源でしょうね。

囲碁の宅配ボランティア
外出の不自由な方々のお宅で

碁石を並べながら、石の持ち方や打ち方を教えていただいた田村さん。

Q最後に関屋地区の方々と関屋中学校の生徒たちに一言お願いします。

A当会は入会随時、見学自由です。囲碁が好きな方、大歓迎です。

小学生、中学生も毎月第1、第3土曜日の午前10時から正午まで見学も、打つこともできます。いつでもどうぞ…。

（プロフィール）
石栄会　代表　高原正広（たかはらまさひろ）さん（78歳）
現在、会員は23人、平均年齢70歳
問い合わせは高原さん宅
025-285-0903
関屋地区公民館利用団体連絡協議会
副会長

編集後記

今回、インタビューアとして活躍した関屋中学校1年生の3人に、それぞれの感想を寄せていただきました。

田村龍太郎さん
石栄会
高原会長と

囲碁をやっていると、脳が衰えず、健康にも良いと知り、中学生も囲碁をよく打つようになればなと、思った。

横山　太紀さん
イルカ担当
加藤さんと

イルカの世話はとても大変なんだと思った。イルカショーも少しだけ見られたのでよかった。これからも素晴らしいイルカショーを見せてほしい。

田中　友康さん
魚類担当
野村さんと

きょう、魚類担当の野村さんにインタビューをして、子どものころからの夢を果たせたことはとても素晴らしいことだと思った。これからも水族館の仕事をがんばってほしい。

インタビュアーは関屋中学校の生徒さんです
関屋地区のみなさん、どうぞよろしく…

約10ヵ月間の改装工事を終えて、この7月15日、待望のリニューアル・オープンした新潟市水族館「マリンピア日本海」。

オープンの日から8月末まで従来の約7割増の観客で連日のにぎわいを見せています。

この素晴らしい水族館の多種・多様そして多数の生きものを陰でしっかり支えて飼育・展示しているスタッフ、その中のお二人に9月20日、インタビューし、毎日の創意、工夫や苦労・抱負、よろこびなどを話していただきました。

イルカの魅力を伝えたい

Qマリンピア日本海に入りたいと思ったきっかけは…？

A大学4年生のときの博物館実習で、群馬県のサファリパークのゾウを担当して、動物の面白さを伝えたいと思ったことから…。

食べもの、体重、水質などの管理

Qでは、イルカのお世話をして大切にしていることは…？

Aエサや体重の管理、水質にも気を使っています。

Q何年か前に担当していたラッコやビーバーの思い出は…？

Aビーバーは草食性で、エサにするヤナギの葉を河川敷まで取りに行ったこと。またうんちが多く、プール掃除がとても大変だったことなど…。

Qイルカは1日どれくらいの量のエサを取るんですか。

A大きいもので、1日約9kg、そのイルカの体重は280kgですよ。

Qイルカの食べるエサの種類はどんなもの…？

A冷凍のマサバやサンマなど。

Qマリンピア日本海に入って、うれしかったこと、大変だったことは…？

A大変だったことは新しい種目をトレーニングすることです。背中を下にして水面上をジャンプする種目は、まず長い棒を水中に沈め、その上を背中を下にして通り過ぎるところから始め、少しずつ棒の高さを空気中へと上げて完成させました。

イルカショーを見ているお客さんの楽しそうな、うれしそうな顔が見られると、ほんとにうれしいです。

イルカにも新しい種目を！

Q最後に、関屋地区の皆さんへ一言お願いします。

Aリニューアルに合わせて、イルカショーもリニューアルしました。新しい種目もトレーニングしたので、ぜひ来てください。

ドルフィンスタジアムの観覧席で。左から横山さん、田中さん、田村さん

華麗なイルカのターゲットジャンプ！

魚類の飼育が長年の夢

Qマリンピア日本海に就職しようと思ったきっかけは…？

A小さいころからの夢だったから。神奈川県に住んでいたとき、静岡県にあった水族館を見て、水族館の飼育係になりたいと思いました。学校を卒業、就職一年目に新潟市水族館が飼育係を募集していると聞いて応募したところ、運よく合格することができたんです。

Q飼育係になって、よかったこと、つらかったことは…？

A夢が叶って、これ以上のことはないと思っていましたね。ですが、人前に出ることや哺乳類が苦手で、イルカショーはとてもつらかったです。

泳いでいるノドグロはめったに見られない

Qマリンピア日本海で珍しい、おすすめの魚は何ですか。

Aノドグロですね。水族館に生きているものはとても貴重で飼育展示するにはとても難しい魚です。1年中で1度しか採取できませんので、失敗すれば翌年まで待たなければいけません。採取したノドグロを船の上で人工授精して、子どもから育成に取り組み中です。

Q魚類をお世話するうえで大切なことは…？

A生きものに必要な条件をピックアップすること。生き生きとした姿で飼育展示したい。

世界初の快挙！赤ちゃんアザラシ飼育に成功

Q今までの仕事で、印象に残っていることは…？

Aバイカルアザラシを赤ちゃんから世話したこと。これは世界で初めての試みでした。夜中にも係員が交替でミルクを与えるなど、とても大変でしたが、見事に成功しました。達成感がありました。

1日に必要なエサ代

Q全館の1日のエサ代は…？

A1日に約63000円。1年間に2300万円以上。エサはいろいろですが、安い時期に大量購入し、冷凍保存して、毎日の必要量を冷凍庫から出して運んでもらいます。

Q新しくなったマリンピアの見どころは…？

A入り口からだんだん海の中に入っていくコンセプト「潮風の風景」。ライトアップも新しくなりました。

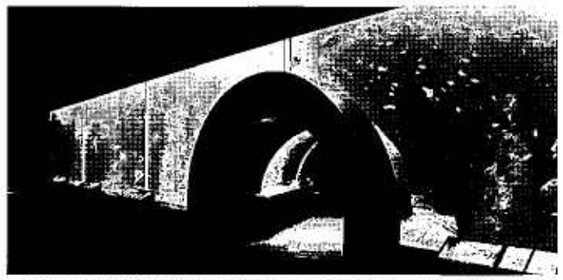
Q関屋地区の皆さんに最後の一言をお願いします。

Aリニューアルオープンから交通渋滞が続き、申し訳ありません。夏休みも終わって、ゆっくりできると思うので、ぜひ来てほしいです。

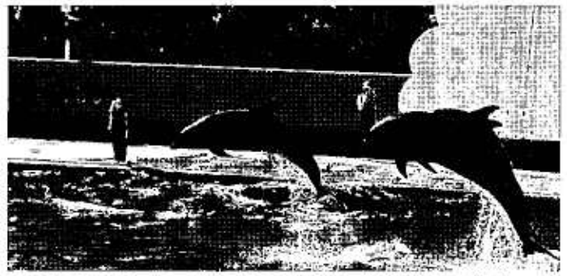
マリンピア日本海事務棟の応接室で。右から田中さん、横山さん

新設された「潮風の風景」。サンゴ礁、砂泥底、岩礁など、生息域の異なる海辺の生きものを多数展示している。

〈プロフィール〉
魚類担当　野村卓之（たかし）さん（49歳）
新潟市出身
平成2年4月就職（同年7月マリンピア日本海開館）　海獣類、魚類、イルカショーを転任、魚類担当係長7年目


マリンピア日本海が誇る「日本海大水槽」のマリントンネル。ここで35種約6千匹の生きものを飼育展示している。

〈プロフィール〉
イルカトレーナー　加藤　結（ゆい）さん（29歳）
群馬県利根郡出身
平成19年4月新潟市水族館マリンピア日本海に就職　3年間、ラッコやビーバーを、現在はイルカを担当


人気のイルカショー。現在、5頭の息の合ったダイナミックなジャンプで観客を楽しませてくれる。